

第4学年2組 体育科学習指導案

令和5年11月17日（金） 第5時限(体育館)

指導者 小澤 悠

1 単元 ネット型ゲーム (かん単ソフトバレーボール)

2 単元のもつ魅力について

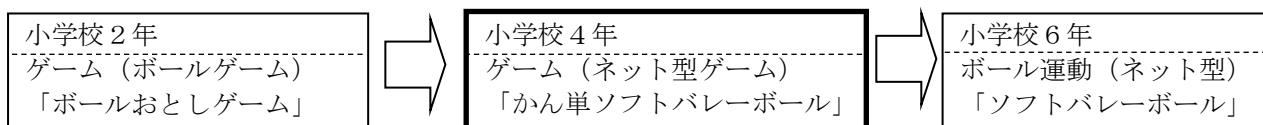
かん単ソフトバレーボールは、ネットを挟んで2チームに分かれて行うゲームである。そのため、攻守入り乱れるかん単バスケットボールやかん単サッカーなどのゴール型ゲームとは異なり、相手から自分たちの動きを妨害されることなく、一人一人がもっている力を発揮して攻めと守りを交互に繰り返すことができる。こうして勝敗を競い合うことができる場所に楽しさがある。このような楽しさをゲームで十分に味わうことができるようにするためには、全員がプレイに関われるように、ゲームのルールを工夫したり、ゲームに必要な技能を身に付けられるようにしたりすることが重要である。また、そうすることで、チームの味方と協力してボールをつなぎ、相手コートに返すといった攻め方や守り方ができるようにもなっていく。自分やチームの攻め方や守り方を決めて、友達と共にそれを成功させるための役割を考えながら学習を進められることに本単元の魅力がある。

3 取り上げる単元について

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ かん単ソフトバレーボールの行い方を知っている。 ・ 軽量のボールを片手や両手で自陣の味方にパスをしたり、相手コートに返球したりして、ラリーの続く易しいゲームをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規則を工夫している。 ・ 役割を考えたり、選んだりしている。 ・ 考えたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かん単ソフトバレーボールに進んで取り組もうとしている。 ・ 規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりしようとしている。 ・ 場や用具の安全に気を付けている。

(2) 関連する学習内容



(3) 単元と子どもの関係

本学級の子どもは、ボール運動が得意な子どもは休み時間になると積極的にドッジボールをして遊んでいるが、苦手だと感じている子どもは、体育科の授業以外ではなかなかボールを使って運動しようとはしていない。どの子どもも取り残すことなく「やってみたい」「できるようになりたい」と思えるように、教具やゲームのルールを簡易化し、子どもの技能の実態や思いに応じて、運動できるようにしていくことを大切にしたい。

そこで、「拾う」「つなぐ」「返す」の役割を明確にし、技能の差にかかわらず全員が触球してから返球するようにルールを工夫する。

また単元の前半は、相手チームと協力してラリーを続け、その合計回数更新を目指す「ツーキャッチラリーゲーム」を行うことで、「どうすれば落とさないか」ということを学ぶ。そして、単元の後半では、得点を競い合う「ツーキャッチバレーゲーム」を行うことで、「相手コートにどのように落とすか」ということを学ぶ。このように、どの子どもも無理なく、楽しみながらネット型ゲームの魅力を味わえるよう単元構成を工夫する。

さらに、チームや個の技能の実態、思いに応じて、練習する方法や順番、時間配分を子どもが主体的に決めることができるようにする。

そのために、教師は子ども主体の学びを支援する伴走者として、ゲーム様相に応じてチームや個の支援を想定しておき、必要に応じて支援を行っていく。

4 単元の評価計画と指導計画（8時間完了）

知…知識・技能 思…思考・判断・表現 態…主体的に学習に取り組む態度

場面	時数		観点	評価規準とその方法	主な学習活動
導入	1	1	知	○ ツーキャッチラリーゲームの行い方を 知っている。 【動きの観察】	1 試しのゲームを行う。
			態	○ ネットや支柱、ボールなど、場や用具の 安全に気を付けている。【活動の様子】 ○ ツーキャッチラリーゲームに進んで取 り組もうとしている。 【行動の観察】	
学習課題：ボールを拾って、つないで、返そう。					
展開 1	2	1	知	○ ボールの方向に体を向けたり、ボールの 落下点やボールを操作しやすい位置に移 動したりして、ボールをキャッチしてい る。 【動きの観察】 ○ いろいろな高さのボールを片手や両手 ではじいて、相手コートに返球している。 【動きの観察】	2 ツーキャッチラリーゲームを 行う。 軽量のボールをキャッチした り、投げ上げたり、相手コートに はじいて返球したりして、ラリー を続ける。 3 練習を行う。 必要に応じて、練習の時間を設 定し、練習の内容を選んだり、考 えたりする。
			知	○ 軽量のボールを片手や両手で投げ上げ たり、自陣の味方にパスをしたり、はじい て相手コートに返球したりしている。 【動きの観察】	
		1	思	○ 攻め方や守り方、競い方などの規則を工 夫している。 【活動の様子】	
展開 2	4	1	知	○ ツーキャッチバレーゲームの行い方を 知っている。 【動きの観察】	4 ツーキャッチバレーゲームを 行う。 軽量のボールを片手や両手で 自陣の味方にパスをしたり、相 手コートに返球したりして、ラ リーの続く易しいゲームを行 う。 5 チームごとに練習を行う。 必要に応じて、チームで練習を 行う。
		1	思	○ 役割を考えたり、選んだりしている。 【行動の観察】 ○ 考えたことを友達に伝えている。 【発言】	
		2 本時 2/2	知	○ 軽量のボールを片手や両手で自陣の味 方にパスをしたり、相手コートに返球した りして、ラリーの続く易しいゲームをして いる。 【動きの観察】	
まとめ	1	1	態	○ 規則を守り誰とでも仲よく運動をした り、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認 めたりしようとしている。 【行動の観察・発言】	6 総当たり戦を行う。

単元末に期待される具体的な子どもの姿

チームの味方や相手チームと協力してラリーを続けることができた。ツーキャッチラリーゲームを続けていくと、ボールをキャッチしたり、投げ上げたり、相手コートにはじいたりすることが上手になった。チームの味方と話し合っ、ラリーを続けるにはどうしたらいいかを考えて試すことができた。ツーキャッチバレーゲームでは、攻め方をチームで話し合っ、考えたとおりに得点できたときはうれしかった。相手も守ることが上手になって、得点を取り合った結果、ラリーが長く続いて得点できたときは、とても楽しかった。

5 本時の指導

(1) 目標

軽量のボールを片手や両手で自陣の味方にパスをしたり、相手コートに返球したりして、ラリーの続く易しいゲームをすることができるようにする。 (知識・技能)

(2) 準備

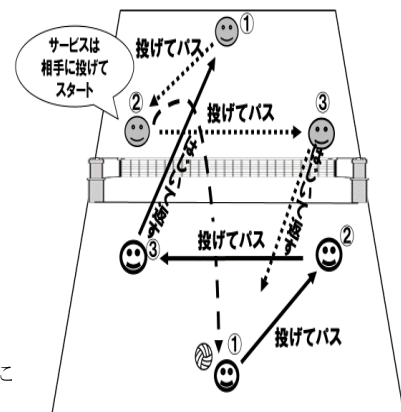
バドミントンネット3個、支柱6本、ソフトバレーボール(100g)35個、ホワイトボード、作戦ボード6個、デジタルタイマー、ゲームベスト(6色)、指導用太鼓、ワークシート35枚、チームシート6枚

(3) 指導過程

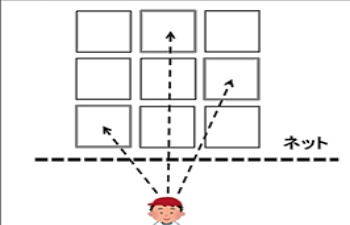
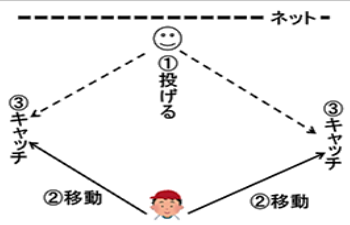
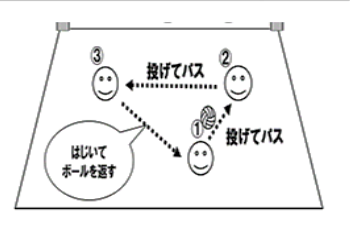
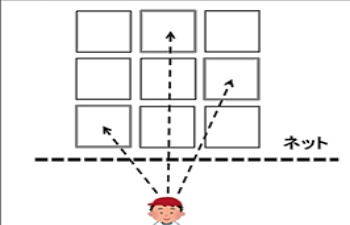
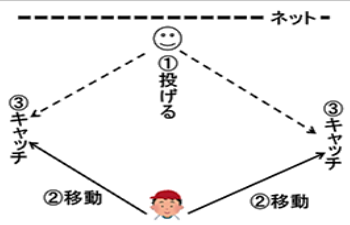
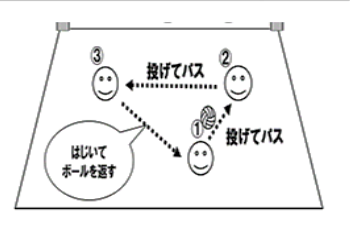
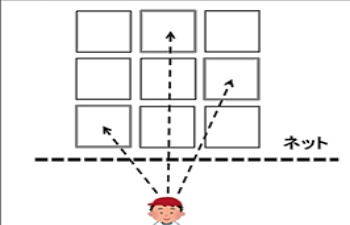
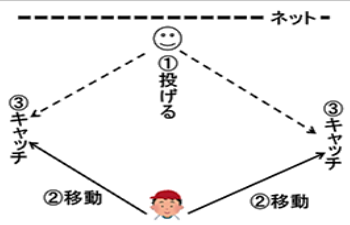
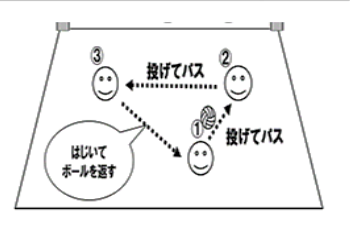
時間	学習活動と予想される子どもの様子	指導上の留意点
1分	1 集合し、健康観察を行う。	○ 素早く集合させ、体調を確認する。
4分	2 本時のめあてを確認し、個の頑張りたいことを考える。	○ 前時の活動を振り返り、本時のめあて(得点を取るための攻撃をしようor防ごう)を個で選び、教師と一緒に声に出して確認する。
本時のめあて：得点を取るための攻撃をしよう。or 得点を取るための攻撃を防ごう。		
3分	3 準備運動や基礎的な動き・感覚づくりを行う。	○ 個で選んだめあてをチームで伝え合い、主に頑張りたい役割を「拾う」「つなぐ」「返す」から選べるようにする。 ○ 選んだ役割を基に、個の頑張りたいことを決め、具体的にワークシートに記入させる。 ○ 前時で考えた頑張りたいことと内容が変わった子どもを挙手させて確認する。
11分 (6分) (5分)	4 ツーキャッチバレーゲームを行う。 (1) 1試合目を行う。 (2) 2試合目を行う。	○ 手首や肩等、よく使う部分をほぐさせる。 ○ 一人1個ボールを持ち、「手たたきキャッチ」「もぐりこみキャッチ」「投げ上げパス」等、ボールをキャッチしたり、投げ上げたり、はじいたりする活動ができるようにする。 ○ 前半2分、入替え1分、後半2分で行う。 ○ 1試合目と2試合目で対戦チームを変える。 ○ 試合をしていない兄弟チームは、審判をしたり、得点を数えたりする。

【基本的なゲームのルール】

- ・ 1チーム5～6人で編制し、チームの中で兄弟チームを作り、前半と後半にそれぞれゲームをする。
- ・ ゲームは3人对3人で行う。
- ・ 1試合で前半戦、後半戦を行う。
- ・ 試合時間は前半2分、後半2分の計4分間とし、合計得点の多いチームを勝ちとする。
- ・ コートは縦10m、横5mの広さ、ネットの高さは160cmとする。
- ・ ボールは100gビニル製を使用する。
- ・ サービスは相手に下から投げてスタートする。
- ・ サービスは山なりのボールで投げ入れる。
- ・ 必ず3回でボールを相手コートに返す。
- ・ 1回の返球までに一人あたり一度しかボールに触れられない。
- ・ 1、2回目の触球者はボールをキャッチし、投げ上げてよい。
- ・ キャッチをしたら移動せず素早く投げ上げる。
- ・ ボールを相手コートの床以外に落とした場合や、3回で相手コートにボールを返せなかった場合は相手チームの得点になる。



- 自分で決めた頑張りたいことを意識して運動に取り組んでいるか声を掛ける。
- 味方にボールを投げ上げるときに、ボールが低かったり、速かったりするチームには、なぜ、山なりのボールを投げ上げるとよいのか教師が問い掛け、ボールの滞空時間を利用して、次の動きへの準備ができることを確認する。

<p>11分 (5分)</p> <p>(1分)</p> <p>(5分)</p>	<p>5 チームごとに考えて、練習を行う。</p> <p>(1) 前半にコートを使えるチームが練習する。後半に使うチームは、話し合いをしたり、空いているスペースで練習したりする。</p> <p>(2) 前半チーム、後半チームを入れ替える。</p> <p>(3) (1)の活動を入れ替えて行う。</p> <div data-bbox="311 459 837 772" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される子どもの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャッチすることが苦手だから「もぐりこみキャッチ」でネット近くのボールを素早くキャッチできるようにしたい。 ・ 練習を「三角ラリーゲーム」にして、ボールをキャッチして、つないで、はじくという流れを繰り返し練習したい。 ・ 練習ゲームの中で練習したい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コートを使えるチームを時間で分ける。(前半チーム5分、入替え1分、後半チーム5分) ○ ゲームを振り返り、めあてに近付けていないチームには「チームシート」を活用して、チームの実態を確認するように声を掛ける。 ○ 本時のめあてに合った練習方法を決められるよう、チームや技能の実態を見て適宜声を掛ける。決められない場合は、下図に示した3種類の練習方法やチーム内での練習ゲームから選べるようにする。 ○ 練習方法はチームごとに工夫してよいことを伝える。 ○ コートを使えないチームは、作戦ボードを使い、ゲームでの配置や動き方の確認をしたり、安全なところで基礎的な動きの練習を行ったりできるようにする。 			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">ねらってアタック</p> <p>【方法】 コートを九つに分割し自分でボールを投げ上げ、狙った場所に片手や両手ではじいて、コートに返球する。</p>  </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">もぐりこみキャッチ</p> <p>【方法】 左右に投げ入れられたボールの方へ素早く移動し、キャッチする。</p>  </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">三角ラリーゲーム</p> <p>【方法】 3人で三角形を作り、ボールを投げ上げたり、はじいたりしてボールを落とさないようにつなぐ。</p>  </td> </tr> </table>	<p style="text-align: center;">ねらってアタック</p> <p>【方法】 コートを九つに分割し自分でボールを投げ上げ、狙った場所に片手や両手ではじいて、コートに返球する。</p> 	<p style="text-align: center;">もぐりこみキャッチ</p> <p>【方法】 左右に投げ入れられたボールの方へ素早く移動し、キャッチする。</p> 	<p style="text-align: center;">三角ラリーゲーム</p> <p>【方法】 3人で三角形を作り、ボールを投げ上げたり、はじいたりしてボールを落とさないようにつなぐ。</p> 	
<p style="text-align: center;">ねらってアタック</p> <p>【方法】 コートを九つに分割し自分でボールを投げ上げ、狙った場所に片手や両手ではじいて、コートに返球する。</p> 	<p style="text-align: center;">もぐりこみキャッチ</p> <p>【方法】 左右に投げ入れられたボールの方へ素早く移動し、キャッチする。</p> 	<p style="text-align: center;">三角ラリーゲーム</p> <p>【方法】 3人で三角形を作り、ボールを投げ上げたり、はじいたりしてボールを落とさないようにつなぐ。</p> 			
<p>11分 (6分)</p> <p>(5分)</p>	<p>6 ツーキャッチバレーゲームを行う。</p> <p>(1) 3試合目を行う。</p> <p>(2) 4試合目を行う。</p> <div data-bbox="311 1299 1444 1545" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価事項</p> <p>軽量のボールを片手や両手で自陣の味方にパスをしたり、相手コートに返球したりして、ラリーの続く易しいゲームをしている。 【動きの観察】(知識・技能)</p> <p>□…ゲームの中で練習した動きができない子どもには、ボールをキャッチしてから少し時間を掛けて行動してもよいと声を掛ける。</p> <p>☆…対戦相手の特徴に合わせて、より得点しやすい場所を狙って、返球するように声を掛ける。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームが始まる前に、個の頑張りたいことは何だったか確認するように声を掛ける。 			
<p>3分</p>	<p>7 本時のまとめと振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「拾う」「つなぐ」「返す」の中から、本時に担う役割が多かったものを想起しながら振り返られるように、ワークシートを活用する。 ○ 次時のめあて(得点を取るための攻撃をしよう or 防ごう)を考えながら、次時に頑張りたいことをワークシートに記入させる。 			
<p>1分</p>	<p>8 整理運動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 痛めた箇所がないか確認しながら行わせる。 <div data-bbox="311 1825 1444 2049" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時の終わりに期待される具体的な子どもの姿・考え：</p> <p>自分たちで考えた役割で得点が取れてうれしかった。次も得点を取るために、チームで話し合って拾い方やつなぎ方、返し方をいろいろと試していきたい。そのためにチームで練習もしていきたい。チームのみんなと協力し合うことが大事だということが分かった。次の時間は、対戦相手によって攻め方や守り方を変えていきたい。</p> </div>			